

ス要因を極力避け、自分に自信を持てる場、持たせてあげられる場、長所に気付かせて伸ばしてあげられる場であれば、尚良いと思いました。

初日の菊千代さんの講演で、受刑者の前で慰問演芸をした体験談がありました。落語家の菊千代さんにとってそこは「自分を認めてくれる場であった。居心地が良かった」と話されていました。同等な気持ち子どもたちが感じられた時には、嬉しく自信にも繋がります。次へのステップの糧となり明日への動力にもなると感じました。

病んだ人の心を解くには、機械ではなく人間愛が必須です。先生方の圧迫された勤務状況も感じました。自治体にも差があることも知りました。国は戦争ではなく、国の宝子として平等に子どもたちの育成に力を入れ、教育の器が大きく深く余裕を持って向き合えるように、教育制度をもっともっと重要視すべきと思いました。

追伸…日本の大学の奨学金制度もともに検討すべきと言いたいです。

(保護者Bさん)

〈第52回岩手県集会〉

9月30日(日)にサンセール盛岡において開催され、高教組から保護者8人を含む77人が参加しました。岩教組と合同で、隔年開催される岩手県集会は、全体では約270人が参加した盛大な集会となりました。全体会に引き続き行われた講演は朴慶南さんの「戦争を許さず 人権を尊び 共に生きる」と題した大変パワフルなお話でした。朝鮮半島につながる自分自身のルーツと関連させた内容には、戦時下の現実を垣間見た思いがしました。その後は4分科会に分かれ、討議をしました。「中・高生のもんだい」の第2分科会では、盛岡北高の保護者の



講師の朴慶南さん



司会・運営を担当しました

舞良敬子さんが、ご自身の3人の子どもの子育ての経験をもとに、保護者の目線から見る部活動などについてレポートを発表しました。高教組は第3分科会「両性の自立をめざして」の運営を担当し、釜石高校の山本友里恵さん、遠野緑峰高校の茅根明美さんがレポートをもとに話題提供を、盛岡北高校の小澤茂登子さんが司会を、とんざ支援学校の主濱早子さんが運営委員を担当しました。話し合いの中では、「普段当たり前と思っていることを、両性の共生の視点からもう一度考えてみよう。」ということが話題の中心になりました。

インクルーシブ教育学習会開催

インクルーシブ教育学習会(両教組合同主催)を43人(高教組20人、岩教組23人)の参加で、10月13日(土)に高校会館で開催しました。講師に村上超子さんをお迎えし、ご自身の体験にもとづいた障害のある子どもの子育てについてのお話を伺いました。

お子さんの幼少期に、わが子が周囲の子どもと様子が違うことに気づいた戸惑い、自閉症であることを受け止めるまでの苦悩、お子さんをうまく受け入れてもらった小中学校の先生や体制のことなどをお話いただきました。

一般的には、「インクルーシブ」ということばと、形だけの「受け入れ」が先行しているように感じるとの指摘から、本当の意味でのインクルーシブは、ただ同じ場に入れることではなく、周囲の理解を広め、場に応じて他の子どもたちと一緒に活動させたり、柔軟な参加の仕方で行うことが必要と思うとのお話がありました。

講演後に参加者の意見交換を行い、参加者から多くの質問や感想が出されました。保護者のお話を直接聞くことができ、貴重な機会となりました。

